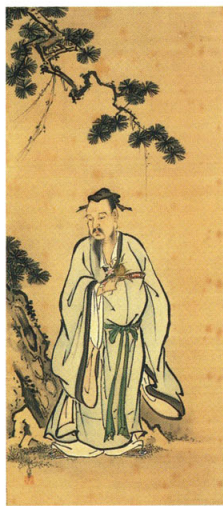




左幅(梅に尾長鳥)



右幅(椿に鳩)



中幅(東方朔)

中国前漢時代、武帝に仕えた文人・東方朔を中幅におき、左右に配置される花鳥図である。中幅の東方朔図では、人物、衣服、樹木それぞれに筆線の特徴を活かして抑揚をつけ、また両幅の花鳥図では、花や鳥の彩色の美しさを重視して柔らかな筆線を用いた穏やかな画面としている。鳥や花の形態は中国画を学んだ中で得たものと見られ、彩色は花や葉を中心に色の濃淡や重ねの工夫を細緻に行っている。常信の画技の高さを示す作品である。

こうした人物を中幅に、その左右に花鳥図を配する三幅対は、江戸時代の床飾りにおいて、掛幅の一つの形式を示しており、こうした図のための花鳥図の存在も、一つの意匠として様々に影響している。

8 椿に鳩・梅に尾長鳥図

狩野常信 二幅(三幅対のうち)

絹本着色 江戸時代(十七〜十八世紀)
本紙各二二・四×五三・六

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections